

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ニトリモール相模原店新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県相模原市南区大野台6丁目2198-1, 2209-387, 2209-494	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	5人
気候区分	地域区分	年間使用時間	4,320時間/年
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2012年10月4日
敷地面積	24,740 m ²	作成者	(株)T&N北海道設計
建築面積	14,269 m ²	確認日	2012年10月5日
延床面積	52,261 m ²	確認者	(株)T&N北海道設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 30% 60% 80% 100% 100%超
 建設 修繕・更新・解体 運用 オナサイト オフサイト

参照値: 100%
 建築物の取組み: 64%
 上記+ 以外の: 64%
 上記+: 64%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので9(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
 Q1 室内環境: 3
 Q3 室外環境(敷地内): 3
 LR1 エネルギー: 3
 LR2 資源・マテリアル: 3
 LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>モールという名称からも、経済的合理性が重要なコンセプトになっている建築物である。全体から細部にわたり汎用品を採用し、シンプルなディテールを基本に設計されている。安全には配慮しながらも、仕上の範囲を最小限にとどめ、無駄のない設計を目指している。</p>	<p>物販店舗であり荷捌きスペースを必要な最小限にとどめ、生産性のない商品のストックヤードを有効的に配置し、効率的な利用を行っている。</p>	
<p>Q1 室内環境 店舗の出入り口を集約し、外部の熱負荷を最小限にとどめている。その上で、断熱性能の高い外壁材料を選択し、効率の良い空調システムを採用している。また、照明器具もLED照明化を進めている。</p>	<p>Q2 サービス性能 段差のない安全でわかりやすい店舗計画となっている。また、機械的設備に頼ることなく、集約された出入り口には常時従業員が配置され、人によるサービスを行なうことを前提とした人に優しい建築計画である。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 運用上必要な部分のみを舗装とし、それ以外をできるだけ緑被に努めている。</p>
<p>LR1 エネルギー 電気エネルギーとガスエネルギー併用としたベストミックス方式を採用。空調機器は高効率型インバーター機種を採用。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 再生品を含め、汎用性の高い材料と高性能で効率の良い材料をバランスよく選択する。また、一般的な「グリーン調達品目」や「エコマーク」を取得した経済的な材料も積極的に採用する。</p>	<p>LR3 敷地外環境 分別可能な廃棄物置場の設置により、地域インフラへの影響を抑制する計画とする。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される